

〈ケーススタディ〉前期と比較して こんなことが判明したらどう分析する？



3

ケース① 前期に比べて 売掛金が 異常に増加している



売

掛金を前期と比較したところが判明した場合、どのようなことが起こっているのでしょうか。

もちろん売上が増加すれば、一般的にそれに比例して売掛金も増加します。しかし、売上の増加以上に売掛金が増加していたり、売上が横ばいあるいは減少しているにもかかわらず、売掛金が異常に増加していたりする場合には、取引先に異常な事態が起こっていることを想定しましょう。

ではどのような異常な事態が考えられるのでしょうか。

● 焦げ付きが発生している

ここでは代表的な要因を2つ挙げます。1つ目は売上代金回収の焦げ付きが発生していることです。そもそも売掛金は期日が来れば現金で回収されたり、手形を受

け取ったりすることにより減少します。

その売掛金の残高が異常に増加しているということは、売掛金の中に期日が到来しても回収できていないものがあるという事態が生じていることが考えられます。

通常の企業活動は売掛金が期日に現金化することを前提として資金繰りが計画されており、その現金化した資金で仕入代金や従業員の給与、家賃等の経費の支払いが予定されているはずで

す。売掛金が回収されないということは、こうした費用の支払いができないことにつながり企業活動において資金繰りが大きく狂ってしまふこととなります。

手許資金に余裕があれば、その資金を取り崩すことによって資金繰りを維持することができますが、手許資金に余裕がなければ

融機関から借入れを行う必要が出てきますし、もし金融機関からスムーズな借入れができなければ資金繰りが行き詰まってしまう事態もあり得るわけです。

ですから売掛金が異常に増加している事態は取引先の資金繰りに黄色信号が灯っているものと捉えて、ヒアリング等による原因の解明が必要です。

もう1つは例えば第三者への貸付金など本来売掛金ではないものが混入していることです。

貸付金などの勘定に計上すると金融機関から指摘を受けてしま

う、あるいは何らかの理由であまり表に出したくない債権を売掛金の中に含めているといった事態が考えられます。

売掛金以外のものを売掛金に混在させているということは取引先の資金状態がすでに異常である、あるいは今後逼迫するなどの事態が生じる可能性がありますから、しっかりとその理由を把握することが大切です。

売掛金の大きな変動は、取引先に異常が発生した際のサインとなることが多いので、必ず前期と比較するようにしましょう。

▼このようにヒアリングしよう

